

●出版・Web 関連フリーランス対象●

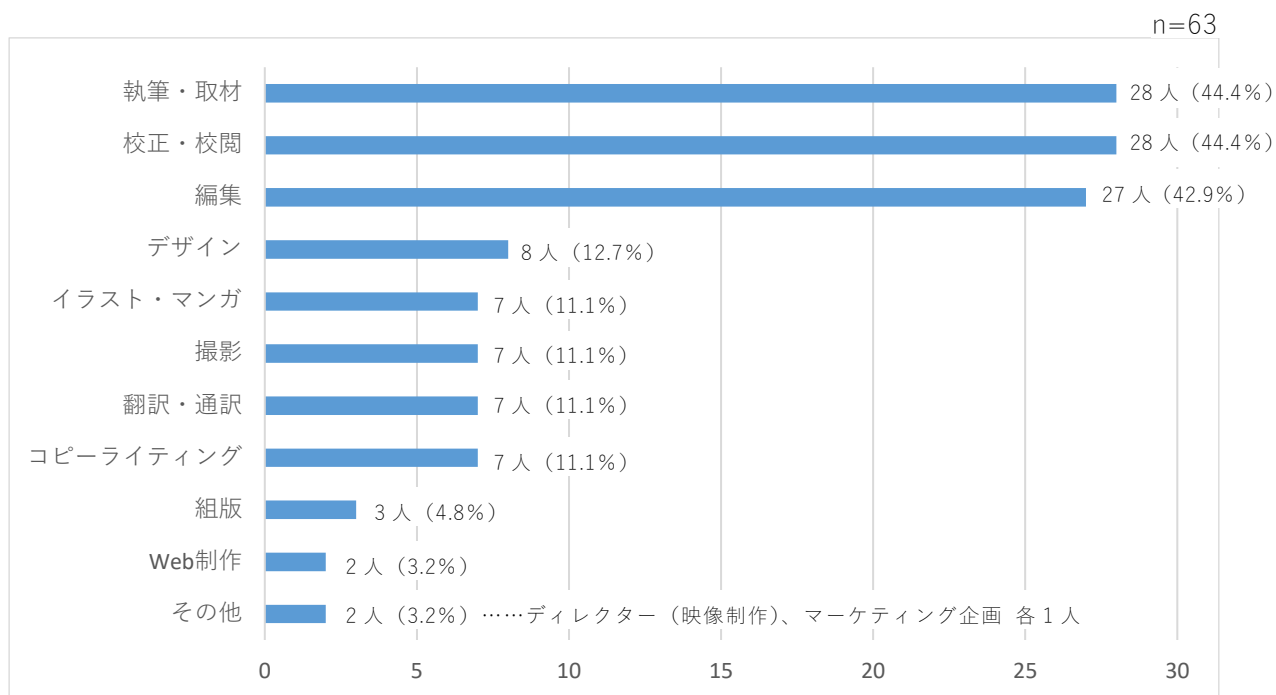
トラブル事例アンケート調査結果

- **調査主体**：ユニオン出版ネットワーク（出版ネッツ）
トラブル対策チーム
- **調査実施期間**：2021年8月16日～8月31日
- **調査対象**：出版ネッツ組合員、出版・Web 関連フリーランス（出版ネッツの組合員は200人。公式サイトなどで出版ネッツ以外のフリーランスにも呼びかけた）
- **調査手法**：インターネット調査
- **回答者数**：63人
- **調査目的**：出版・Web 関連業界のフリーランスが仕事上、どのようなトラブルに直面しているのか、その実態を「見える化」する。フリーランスの就業環境の整備をさらに進めるために、公正取引委員会や厚生労働省などに情報提供する。

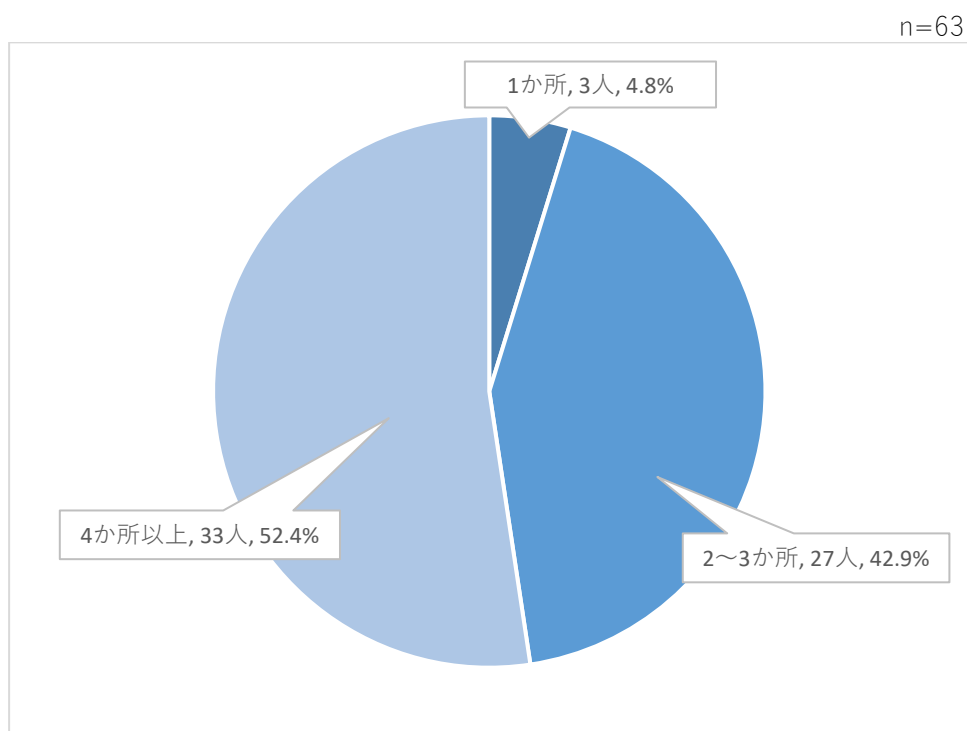
2021年9月29日

ユニオン出版ネットワーク（出版ネッツ）トラブル対策チーム

Q1 あなたの仕事の種類は？（複数回答可）

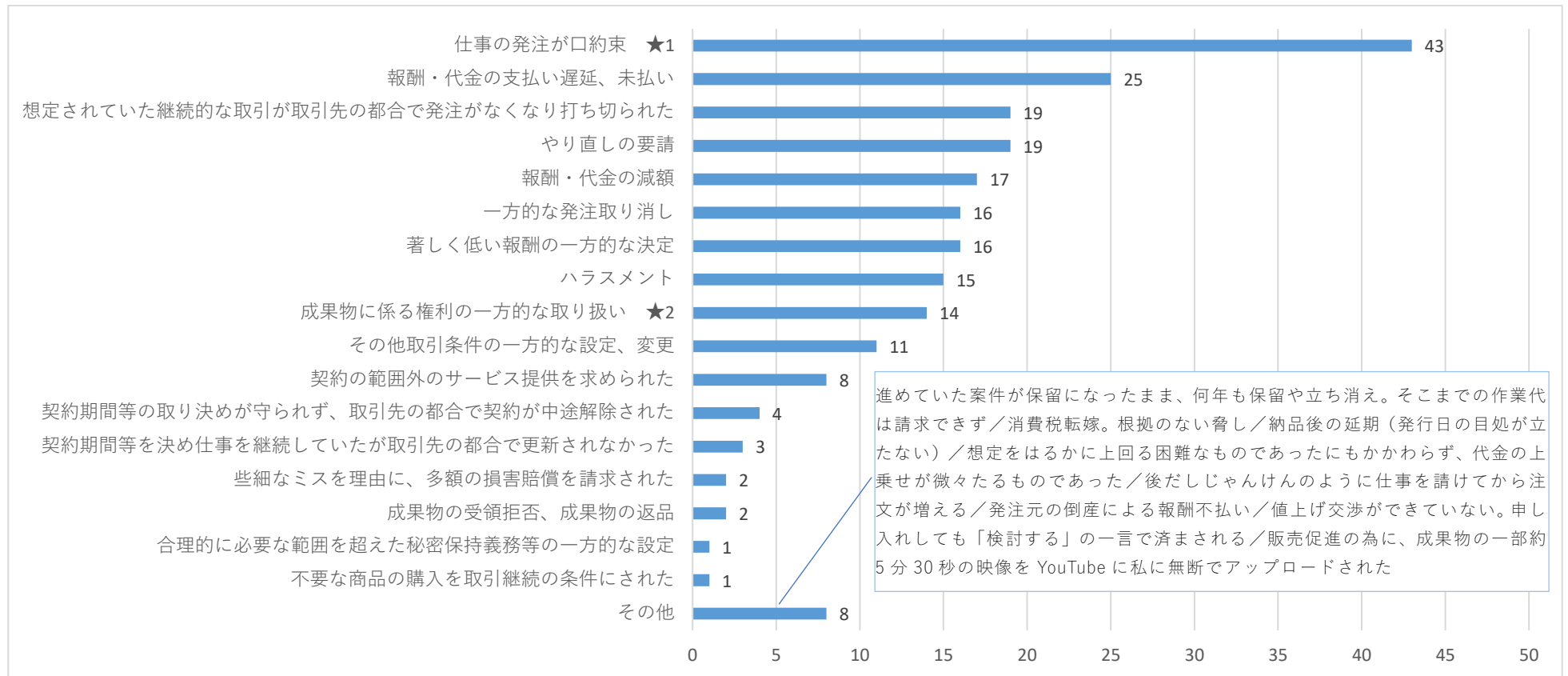


Q2 取引先の数は？



Q3 直近の5年間で、遭ったことのある、あるいは見聞きしたことのあるトラブルにチェックしてください。
(複数回答可)

n=63



★1 契約書や発注書、メールを取り交わさない、取り交わしている場合も十分な記載がない、など

★2 著作権を不当に譲渡・利用許諾させられた、自身のアイデアや企画案が無断で使用された、など

Q4 直近の5年間で、遭ったことのある、または見聞きしたことのあるトラブルについて、具体的にお書きください。

【仕事の発注が口約束】

	自由回答
1	依頼を受けたが、納期、発注点数、価格、全てが曖昧なクライアントがいた。(編集, 執筆・取材, デザイン, イラスト・マンガ, 撮影)
2	案件ごとに契約書を交わすことはまずない。(デザイン)
3	数カ所と取り引きしているが、契約書をかわすのは1カ所のみ。(執筆・取材)
4	フリー仲間の仕切りで発注も曖昧。報酬と作業量の事前の確定なく業務が開始されてしまい、だらだらと続いて終わりの見えない作業が、覚書もなく続いた。(編集, 執筆・取材, 撮影)
5	某出版社は仕事の依頼をすべて電話で行い、報酬額などの条件を文書、メールで残してくれない。(編集, 執筆・取材)
6	業務委託契約書にフリーランス側だけの押印箇所しかなく、発注側代表者の押印箇所がない。メールで問い合わせたら「今までトラブルは起きてないから大丈夫」と言われた。未払いなどの実害はなし。(執筆・取材, 校正・校閲)
7	長く携わっている雑誌の業務では、新規の案件が発生した場合も契約内容が事前に示されることはない。ただし、これまで関わった仕事で単価はわかっており、支払いもその基準に従ってなされているためトラブルは生じていない。(編集, 執筆・取材, 校正・校閲)

【支払い遅延・未払い】

1	雑誌の原稿を納品し、発売までされた後に、会社が倒産し、原稿料が支払われなかった。メインのクライアントだったこともあり、しばらく入金がなくて困った。(編集, 執筆・取材)
2	納品済み原稿への未払い。上は担当編集の責任にして、賠償をさせようとする。(イラスト・マンガ)
3	アポ取り、取材、素材集めまで行った業務について、「成果物がない」との理由で支払いを拒否された。(編集, 執筆・取材)
4	代金が支払われない。(編集, 執筆・取材, コピーライティング)
5	当初の予定と違う作業が発生したが、その分の追加料金を払うつもりはないと突っぱねられた。(デザイン, イラスト・マンガ, 撮影, コピーライティング)
6	追加作業(依頼された以外の作業)が発生したのでその分を請求したが支払われず、訴訟をした。(ディレクター(映像制作))
7	報酬未払い。(編集, 執筆・取材)
8	某出版社で編集制作をした本の製作費、原稿料(約60万円)が支払われなかった。(編集, 執筆・取材)
9	某広告代理店経由で受託した自費出版の制作費(100万円)が期限を3カ月過ぎても振り込まれなかった。(編集, 執筆・取材)
10	外国企業の依頼で音声メッセージの評価を行ったが、支払が遅れた。(翻訳・通訳)
11	過去に取引のあった2社で支払遅延があった。最終的に2社とも全額支払われたが、交渉にもすごいエネルギーが必要で、個人事業のため、当時は交渉手段も、相談窓口も分からず苦労した。(校正・校閲)

【減額】

1	報酬の切り下げを郵便で通知されたが、異議申し立て期間が5日程度しかなく、しかるべきところに相談したくても労組も法律相談もまずは予約を取るのに1週間、メール相談も返信がくるまでに日数がかかり、締め切りに間に合わないので納得しないまま報酬の切り下げを飲まざるを得なかった。(校正・校閲)
2	契約書にある金額とは異なる、大幅に減額した請求書を送るよう指示してきた。減額の理由は記されていなかった。(編集, 執筆・取材)
3	消費税・振り込み手数料などを一方的に差し引いての支払い。(デザイン, イラスト・マンガ, 撮影, コピーライティング)
4	海外に在住していた頃から取引していたのに、消費税8%適用時には、「実は今までの契約料金は消費税5%込みの値段だった」と言われ、5%減額した後8%を掛けた金額を適用された。(校正・校閲, 翻訳・通訳)
5	消費税転嫁。(翻訳・通訳)

【著しく低い報酬】

1	報酬が菓子折だった。(編集, 執筆・取材, デザイン, イラスト・マンガ, 撮影)
2	1文字あたり0.2円台という、低額の校正依頼。(校正・校閲)
3	単価交渉に応じずに契約更新。(編集, 執筆・取材)
4	大手クラウドソーシングサイトの紹介案件(未応募)は単価が低く、しかも早い者勝ちだった。(翻訳・通訳)

【過度のやり直し・追加作業】

1	版元があり、その間に編集プロダクション的役割の会社が入り、編プロ的なところから直接仕事を依頼され、請けた仕事です。当初文字原稿でいいという話だったが、グラフを作れないか、原稿に付けるイラストのラフを描いて欲しい、などと言われた。さらにもともと行ってきた仕事の取材相手は、1本(の原稿)につき、1人のはずが、版元側の人選ミスで、追加取材となり、2本のうちの1本は、2人を取材して1本にまとめることになった。そのためスケジュール変更を余儀なくされた。さらに2人分を1本にまとめる原稿について書き方については特に指定がなかったが(ただし2人分をひとまとめにして欲しいとは言われた)、入稿すると、一人称で書いて欲しい、それぞれ別々にまとめて欲しいなどの注文がつく。原稿料は変わらないので、正直、二度とやりたくないと思っている。(執筆・取材, 撮影)
2	成果物を納めた後、追加取材と追加の執筆があったが、その分の原稿料は加算されなかった。(執筆・取材)
3	顧客都合での作り直し。打ち合わせ予定の3倍の時間がかかったが、追加料金は格安。(組版, デザイン)
4	最初に発注された仕事から、進行しているうちにどんどん作業内容が増え、ギャラの増額の話などもなく、断らない限りどこまでも仕事を増やされそうになった。(編集, 執筆・取材)
5	下描きの修正を何度もさせられ、途中から最初の依頼にない事まで言われた。通常は下描きの修正は制作費の範囲内とするが、あまりに修正依頼が多いので修正料の上乗せを請求し、払ってもらった。(イラスト・マンガ)
6	事前打ち合わせ→取材→執筆→直し→再直しが常態化してしまった。(編集, 執筆・取材, 撮影)

【発注取り消し（キャンセル）】

1	依頼後、ラフ等打ち合わせ途中でプロジェクトの打ち切り決定連絡を受けた。（編集、執筆・取材、デザイン、イラスト・マンガ、撮影）
2	海外取材に行っていたと言われて1週間ほど日程を空けていたのに、出発の数日前に「やっぱり行かなくていい。日本でできる作業をしてほしい」と言われた。当然その取材期間は予定を空けていたので、仕事が入れられず、見込んでいた収入も得られなかった。（編集、執筆・取材）
3	2～3日かかる校正業務を依頼されたので、スケジュールを空けて待っていたが、一向に連絡がない。そこで、問い合わせのメールを送信したところ、結局内部で済ませた旨、返信された。他の仕事を断って空けたスケジュールだったので、結局、2～3日分の損害になってしまった。（執筆・取材、校正・校閲）
4	海外の翻訳会社と契約、東南アジア観光関連の翻訳プロジェクト社員として採用されたが、コロナ禍により顧客（観光サービス企業）需要がなくなったため、プロジェクトは中止、代替りの仕事も紹介されていない。（翻訳・通訳）
5	現在就業先で研修期間を経てレギュラーとして同僚に紹介された後、解雇通告された。研修を受けない、また引き継ぎ内容も乏しい状態なのに戦力外とされた。（翻訳・通訳）
6	過去の取引で、予定の仕事を一方向的にキャンセルされた。（校正・校閲）
7	著者と進めていた案件が、著者の意向が変わったことによってキャンセルになりました。（編集）
8	大元の版元より昨年11月に契約書を交わしたにもかかわらず、今月いきなり版元の方針で外部に依頼できないと契約解除の意向を伝えられ、音信不通になりました。おかげで生活困窮に。（校正・校閲）

【著作権関係】

1	以前に勤務していた会社での著作物（権利は個人）を他社の書籍に再録する連絡をしたところ、事後に「業務著作物」と主張された。取引先の法務と相談し、全面改訂したものを収録したが、書籍の製作は2週間遅延した。（編集、執筆・取材、翻訳・通訳）
2	翻訳した原稿を勝手に書き換えられた。しかも先方はそれが契約違反、ルール違反である自覚がない。（編集、執筆・取材、校正・校閲、翻訳・通訳）
3	団体の仕事をした後、その団体が作ったチラシに、自分のイラストが無断使用されていた。営利目的ではなかったので、抗議だけした。（イラスト・マンガ）
4	A社から、B社の出版物に使われた自分のイラストについて、著作権は自分にあることを確認された後、B社から、A社が無断で使用したと抗議があり、無断流用を初めて知った。B社からは数年間干された。（イラスト・マンガ）
5	通常原稿料だけですべてのイラストの著作権譲渡契約書にサインしてと納品後に言われた。「今後、他の媒体に使う事がある時に連絡できないと困るので」と言われた。「連絡ができないようにはしないし、契約書を交わすことはできない」と言う。「今後の発注に関わる」とも言われ、それでも交わさなかったが、結局その後依頼は来っていない。（イラスト・マンガ）
6	本文イラストを何点か描いた書籍で、刷り上がりを見たら、無断で表紙に本文イラストが流用されていた。グロスでの制作費だったので請求できなかった。（イラスト・マンガ）
7	納品データの勝手な変更。（デザイン、イラスト・マンガ、撮影、コピーライティング）
8	納品データの勝手な流用。（デザイン、イラスト・マンガ、撮影、コピーライティング）
9	納品した、書籍付録のDVDの一部（約5分30秒）を著作者の私に無断で変更し、YouTubeに勝手にアップロードされた。（ディレクター（映像制作））

【取引条件の一方的な設定・変更】

1	それまで実質無期契約だったのに、一方的に1年契約に切り替えさせられた。(校正・校閲)
2	中期的な仕事で数カ月の空きがあり、予定通りに納品したら(2020年12月)、「その案件は一旦中止になり、2021年6月以降に延期になった」とのこと。編集者の連絡忘れ。6月に連絡したが、今後の予定はまだ未定。(編集、執筆・取材、校正・校閲)
3	専用のPCとデスクを用意する、サポートの社員をつける(2馬力で業務にあたる)という条件だったが、いずれも守られなかった。最終的に、PCを自前で持ち込み、一人で業務を遂行することを強いられた。(編集、執筆・取材)
4	初期の条件にあった締切が早められた。その連絡は、メールであった。(編集、執筆・取材、校正・校閲)
5	予期しない短納期。(編集、執筆・取材、撮影)
6	振込手数料を負担することに合意する書面の締結が契約の条件だった。(校正・校閲、翻訳・通訳)

【〔契約期間あり〕契約更新されない】

1	3年間程年間契約で請け負ってきた翻訳の仕事。某企業から編集プロダクション経由で、私は編集プロダクションと契約したのだが、親会社(某企業)の体制が変わり、経費などが大幅に削減されることとなり、今年来るはずだった仕事が来なくなってしまった。(編集、執筆・取材、翻訳・通訳、コピーライティング)
---	--

【〔継続的な取引〕発注打ち切り】

1	プロジェクトを育てた途端に担当を社員へ変更されそうになった。(編集、執筆・取材、デザイン、イラスト・マンガ、撮影)
2	定期案件が、その作業内容の重さと報酬のバランスが悪いことを発注側に相談したところ、発注されなくなった。(デザイン)
3	主要得意先の毎月の定期仕事が打ち切りとなった際、その仕事を担当していた社員にその得意先から秘密裏に当社に来ないかと引き抜きがあった。社員は断ったが、それ以後、打ち切りとなった定期仕事以外の仕事の発注も一切なくなった。(編集、執筆・取材、コピーライティング)
4	Webサイトのデザイン・更新業務を行っていましたが、クライアントが発注先を一本化するとの理由で、一方的に取引を打ち切られました。そのクライアントの業務がオンコールワークの性質が強く、多くの時間をそちらに割いて対応していたため、8割を占める状態でしたが、突然の打ち切りにより売上額が急落し、非常に困惑しました。(デザイン)
5	作品が売れなかった事を漫画家のみの責任として一方的に打ち切りを決定する。(イラスト・マンガ)
6	月刊誌の校閲を6年ほど行ってきた。消費税込みの金額だったので「消費税を上乗せしてほしい」と交渉したところ(実質の値上げ要請)、その月は、消費税を上乗せしてくれたが、次号で仕事は打ち切りと言われた。理由は、「外注をやめて社内でやることになった」と言っていたが、そのころの編集部の忙しさから推測するに、本当の理由は、消費税を乗せると依頼したことなのではないかと疑っている。理由が本当かどうかを調べるすべもなく、受け入れるしかなかった。定期的な収入が打ち切られることは、非常に大きな打撃を受ける。(編集、執筆・取材、校正・校閲)

7	受け持っていた雑誌が休刊になった。発表から休刊まで3か月。会社には他に校閲の行き場はないから、ということで首を切られた。今考えると退職金を要求すればよかった。（編集、校正・校閲）
8	継続的に取引をしていたにもかかわらず、事前の知らせもなく急に仕事がこなくなった、もしくは半分以上に減った。（A社は吸収合併され会社自体がなくなった。B社は業績悪化により、既存の事務所も閉鎖され完全在宅勤務になり、社員も減った。C社はM&Aで子会社化された後コロナの影響を受け、発注自体が少なくなっている。）業界的に厳しいのかもしれないが、M&Aで多重下請け化が進んでいる。上流の企業は仕事をせず下請けに丸投げ。（校正・校閲、翻訳・通訳）

【ハラスメント】

1	チームを組んでやるような仕事の場合、チーフとなったフリーランスに陰湿ないじめを受けたことは数々ある。発注元企業の担当社員や管理職に訴えても全く解決しないどころか、地位が低い被害者のほうが仕事を外されるなどの制裁をくらう。（校正・校閲）
2	取引先の管理職にあたる人と、3人で飲みに行った後、「家に行きたい」と言われた。シェアハウスで二人暮らしだったため、家まで帰れば逃げられるかと思い、2人でタクシーに乗ったところ、胸を触ろうとしてきた。（編集、執筆・取材）
3	クライアントが外注先のことを、「あいつ、干すぞ」などと言っているのをよく耳にしている、実際に干されて生活に困窮したフリーランスの人もいた。私自身は干されなかったが、脅威に感じた。（編集、執筆・取材）
4	ミスをした際、当該業務とは無関係の共通の知人の名前を挙げて、「あなたの評判は聞いている」「報告する」と圧力をかけられた。謝罪しているにもかかわらず「迷惑をかけて平気である」と決めつけ、「親の顔が見たい」など、人格を否定する言葉で執拗に責められた。（編集、執筆・取材）
5	上司が最悪している社員に逆らったため、仕事を奪われ、部署から外され、同僚との接触を禁じられた。独り言やあくびを発したら注意されたり、無理な仕事を与えられたり、プロジェクトから外された。（翻訳・通訳）
6	「X社との取引はすべてうちが取り仕切っていて契約もある。いろいろ要求するなら仕事を回さない」と言われたが、実は先述の契約は存在すらなかった。（翻訳・通訳）
7	印刷会社での校正。文字やデザイン以外で、印刷に直接かわる部分（事前レクチャーを受けていない部分）でのミスについて、印刷会社担当者から呼び出され、叱責された。（執筆・取材、校正・校閲、コピーライティング）
8	作業量が多すぎてオーバーワークが続いているため、業務委託契約書に書かれていない仕事を断ったら、「バイトしてるのか」と言われた。「業務委託」であることと、本来、契約書に書かれた週実働時間はめいっばい以上に仕事をしていると答えたら、週40時間まではだいじょうぶだ、と意味不明なことを言い、役員が集まる会議の席上で、「××さんができなさすぎるから」と次々にプロジェクトから外し、情報を遮断。事務手続き上の書類も回さなくなり、ますます実務が滞っている。（編集、執筆・取材、校正・校閲）

【不当な取引条件】

1	契約書に「記事が原因で生じたトラブルは全て執筆者が負担する」といった記述があり、契約を断った案件があった。掲載の時点で、掲載する側（媒体）の責任もあるはずなのに、執筆者に全てを負わせるのはおかしいと思う。（執筆・取材）
---	---

2	契約書の印紙を相手側の分まで貼るようによ請された。相手企業からは 200 円×2 枚を貼るようによ請されたが、実際の契約書は印紙税 200 円の対象ではなかった。(校正・校閲, 翻訳・通訳)
---	---

【その他】

1	共同企画で数万円の予算を支払ったが、連絡が途絶え企画も頓挫。探して説明を求めると体調不良としか言わない。予算返金を求めたが再び連絡が途絶え家族が心配をした為、追及を思いとどまった。(編集, 執筆・取材, デザイン, イラスト・マンガ, 撮影)
2	版元の担当編集者ですが、取材先が東京ではなく地方にしばらく在住しながら取材していましたが、編集者が現地に入るのに、チケットをこちらで手配して欲しいと言われた。(執筆・取材, 撮影)
3	原稿料の振り込みはあったが、作品(マンガ)はお蔵入りになった。(イラスト・マンガ)
4	売れなかったコミックスを漫画家の責任として買い取らせようとする/裁断費用を請求する。(イラスト・マンガ)
5	メールで条件を確認し、テストライティングをすることになったが、その後こちらの制約がかなり重い NDA の締結を求められた。報酬に見合わない内容だったので、その後の契約は断ったが、条件をすり合わせる時間が無駄だったので早く言ってほしかった。(執筆・取材)
6	悪気はないのだろうが、振込額が違ったり漏れていたりすることが年に 1 回ペースであるので、毎回チェックをしないといけないと感じた。(執筆・取材)
7	書いたものを掲載しない。(編集, 執筆・取材, コピーライティング)
8	定期的の仕事だが、スケジュールを空けて待っていることは求められるのに号によって仕事量が安定しない。(編集, 執筆・取材, 撮影)
9	突然発注があり、突然発注がなくなる、という不安定な状態です。トラブルと言えるものではないかもしれませんが、つねに不安な気持ちになります。(校正・校閲)
10	業務委託の契約書を交わし、月額報酬も合意して仕事を始めたが、業務範囲が多岐にわたり本来の業務なのかどうかははっきりしない作業が異常に多いことが後からわかった。平日 9 時～17 時は、外部からの問い合わせに対してオンコールでいることについては仕事開始前に同意したが、週末も用件を言いつけられたり、会議への同席を求められるのが常態化している。代休を取ろうとすると、いちいち理由を聞かれる。社員だとしても代休を取るのに理由を開示する義務はないだろうと思う。(編集, 執筆・取材, 校正・校閲)
11	メールを送っても 1 回で返信がきたことがない。日をおいて【再送】【再々送】と送らないと返事がもらえず、その間、作業が滞りスケジュールが遅延する。理由を尋ねると、忙しいからと言う。忙しいのはこっちも同じであり、それが人に仕事を頼む態度かと思う。人を見下している。(編集, 執筆・取材, 校正・校閲)
12	企業サイトの翻訳を依頼され、試しに数ページ翻訳したが(取り決めなし)、結果が企業の意向を理解していないとのことで採用されなかった。翻訳した内容の報酬のみ支払ってもらう。(翻訳・通訳)
13	初めて仕事をするようになった版元。ある翻訳物の訳者から預かっていた企画書を見てもらい、企画が通ったら編集は請け負うという話になっていた(電話)。心算をしていたが、実務開始前に「こちらでやることにします」と連絡があった。企画書自体が翻訳家によるもので、結果的に橋渡しをただけの格好になったことは仕方がないが、「編集はお願いします」という言葉が、いともかんたんに反故になってしまい、残念な気持ちになった。(編集)

14	フリーランスとして翻訳を依頼されたが、試訳したものを出したら、会社哲学に合わない内容とクレームを受け契約を取り消された。翻訳した分だけの報酬を要求し、支払ってもらった。 (翻訳・通訳)
----	---

【支払い遅延・未払い + 減額】

1	某編集プロダクションの依頼で、書籍の取材・執筆・編集を担当。すでに納品し本も出ているのに連絡もなく、請求書を送付したい旨伝えると「待ってほしい」と言われたまま数カ月放置。「版元に相談する」と伝えると、請求書送付はGOとなったが、今度は「1ページ〇〇円」ではなく「1案件〇〇円」の認識だった、とあからさまな値引き交渉をされる。契約書をたてにはねつけるが、その後も約束の日に入金されず、1年間ほど催促を繰り返すこととなった。その後、この編集プロダクションからの仕事依頼はすべて断った。3年前にこの会社は倒産した。(編集、執筆・取材、撮影)
---	---

【仕事の発注が口約束 + 著しく低い報酬】

1	契約書を交わさず作業してから料金を聞いたら、異様に安かった。次の仕事はもう少し奮発しますと言われたが、二度と発注はなかった。(イラスト・マンガ)
2	これまで何度か仕事をしてきた信頼できる版元からの、単行本の編集の依頼。本の性質上、構成の立案、原稿案作成、筆者とのやりとり等、膨大な仕事量となったが、終わってから示された編集費がこれまで受けていた額の3分の2にも満たず、費やした時間と労力にあまりにも見合わないものだった。オールカラーで写真を多数使うなど経費が大きくなったということだったが、仕事を受ける段階で編集費について確認しておけばよかったと後悔。先方の台所事情もなんとなくわかっているだけに増額の話ができなかったことも悔やまれる。(編集)
3	編プロから、「手に余る難題なので、手を貸してほしい」との依頼。確かに難しいものであったため、一旦断った。が、どうしても、とのことで、やむなく引き受けた。実際にやってみると、困難なものばかり。話にならないほどの時間を要した。疲労困憊。実態を訴えたが、予算の関係上、些少なことでしかできない、と。(校正・校閲)

【仕事の発注が口約束 + 過度のやり直し・追加作業】

1	国家プロジェクト関係の仕事をA社の下請けのB社のさらに下請けのフリーランスとして、2年間ほど断続的に受けていた。契約は取材と執筆のみだったが(契約書は無し)、取材現場に動画(発注はA社)が入ることがあり、ある時期から(動画の意図や使用目的もわからないまま)動画のインタビュー、ディレクションを動画スタッフからその場でお願いされるようになった。たまたま動画インタビューの経験もあったため、こなすことはできたが、報酬にはまったく反映されなかった。一方、動画スタッフ(単発のフリーランス)はA社から取材情報をほとんど伝えられないまま現場に来ており、「現場でのディレクション・インタビューはライター(私)に任せている」と聞かされていることもわかった。B社を通じてA社に何度も説明を求めたが無視され、さらに抗議すると「(A社とB社の契約には)動画ディレクションも含まれると認識している」と返答があった。(編集、執筆・取材、撮影)
---	---

【支払い遅延・未払い + 発注取り消し（キャンセル）】

1	版元から直接請け負った仕事で、依頼された仕事（取材、執筆）を行い、納品したのはいいが、担当編集者がうつ病となり、仕事の続行が困難となり、結局仕事がなくなった。仕事はしているので、原稿料等を要求したところ、組合が入る形で、支払われる形にはなったが、思ったほどの出来でなかったというようなことを言われた挙句（ただし原稿内容はほかの組合員に確認してもらい、版元が言うような酷い内容ではない、という判断であり、執筆は編集者もいる以上、編集者が思った原稿になるように伝えていない責任もあるという話で、それについては版元側が謝罪）、こちら側から要求しなければ一言も原稿料等の話がなかった。（執筆・取材、撮影）
2	締め切りが設定されて進めていたものが、突然保留や保留の旨の連絡もなく放置。案件によっては何年も音沙汰がなくなる。進めていたところまでの作業料は請求できず。（デザイン）
3	某出版社から受注した書籍の制作に関して、表紙デザインのやり直し指示が繰り返され、やり直しの理由も合理的な説明がなかったため、異議を申し立てたところ、途中で仕事を取り上げられた。その時点で2本の仕事が動いていたため、2本分の納品をしたところまでを請求したが受け取りを拒否された。金額が約130万円と大きかったため、弁護士を立てて争い（裁判までは行っていない）、約70万円で和解した。（編集、執筆・取材、コピーライティング）
4	制作途中でのキャンセルだが、こちらの責任と一方的な理由をつけて支払いを拒否。（デザイン、イラスト・マンガ、撮影、コピーライティング）

【仕事の発注が口約束 + 〔継続的な取引〕発注打ち切り】

1	基本的に口約束、雑誌立ち上げに際し、「3号で廃刊にされては困る」と言ったら「こちらも社運をかけているのでそれはない」と返答されたがまんまと3号で廃刊。人集めなどで赤字をこうむった。（校正・校閲）
---	---

【仕事の発注が口約束 + 不当な取引条件】

1	ミス発覚後、以降の取引でミスが発覚した場合、報酬支払後であっても10%返金することを一方的に決められた。そのミスの判定基準は一切示されなかった。（校正・校閲）
---	---

【減額 + その他】

1	通いで仕事をしていたが、契約している業務と全く異なる仕事をする部署に配置転換させられたうえに、一方的に報酬を下げられた。（校正・校閲）
---	---

【支払い遅延・未払い + 過度のやり直し・追加作業】

1	校正漏れを理由にやり直しを命じられたが、その分の賃金は払わないと言われた。（執筆・取材、校正・校閲、コピーライティング）
---	--

【支払い遅延・未払い + ハラスメント】

1	打ち合わせ中、体を触られたり性的な発言を継続的に受けた。セクハラを拒否すると説教され報酬支払いを拒否された。（執筆・取材）
---	---

【減額 + 発注取り消し（キャンセル）】

1	組版の仕上がりの不満足を理由に、一方的に作業中止の指示。また報酬を減額したにもかかわらず、先方は当方がデザインしたものを販売している。（編集、校正・校閲、組版）
---	--

【減額 + 取引条件の一方的な設定・変更】

1	複数回の取材で2つの原稿を執筆するよう依頼があった。AとBそれぞれ原稿料の提示があったが、取材が終わった後で一方的に「Bの原稿はこちらで書くことになった」と言われた。Aの原稿料だけでは複数回の取材をしたことのコストが重かったのが嫌だったが、メールで一方的に告げられ何も言えなかった。何か言って今後の仕事を打ち切られるのも怖かった。（執筆・取材）
---	--

【著しく低い報酬 + 過度のやり直し・追加作業】

1	安価な単価で過度な修正。（編集、執筆・取材）
---	------------------------

【過度のやり直し・追加作業 + 発注取り消し（キャンセル）】

1	契約した内容以外の仕事も要請され、数時間におよぶウェブ会議に無償で参加させられた。会議分の料金込みで見積もりをしたところ、その案件の発注を取り下げられた。会議分も支払いなし。（校正・校閲、翻訳・通訳）
---	--

【過度のやり直し・追加作業 + ハラスメント】

1	数年前、某企業の広報誌の取材執筆を編集プロダクション経由で請け負った。1号ごとに特集を組む形式の広報誌なのだが、取材先が決まっても、編集プロダクションの編集担当から台割も示されず、明確な指示もなし。取材後にこちら（ライター）から案を出し、それが採用されたが、今度は上がって来た原稿に対し、直すよういろいろと意見を出してくる。その意見が具体的で明確ならすぐ直すのだが、イメージで言われたり、雰囲気と言われたりするの、把握するのに難儀した。加えて最後はその編集者が感情的になり、個人攻撃のような物言いをしてきた。最終的に「この先はそちらで好きなように直してください」と私は手を離れた。あるライターの紹介だったが、その人も同様のトラブルがあり、今は私もその人も取引をしていない。（編集、執筆・取材、翻訳・通訳、コピーライティング）
---	--

2	<p>版元があり、その間に編集プロダクションが入り、その編プロから直接請けた仕事です。本の企画で執筆依頼があり、請け負った。版元の担当編集者からノンフィクションの本だと言われたが、後になってフィクションで書けないかと言われ（10人取材したとしたら、10人取材して得た要素を1人分の中に盛り込んで書けないか、といった話）、それはできないと断ったところ、当初の条件に話は戻ったが、その後、担当編集者から仕事をする上でさんざんいじめを受けた。例えば、付けたことがないのにゲラにページを付けろと言われてたり、本の中に見開きで入れるイラストのレイアウトをしろ（やったことがないと言っているにもかかわらず。そもそも最初に仕事を請けた時点でそうした条件も提示されていない）といったことです。挙句出版物ができて、出版記念パーティーに本を送って欲しいと言ったところ、自分で印刷所に電話を入れ、そこから直接、会場に送ってもらえと言われた。（執筆・取材、撮影）</p>
---	---

【発注取り消し（キャンセル） + ハラスメント】

1	<p>編集者のミスをごちらのせいにされ、一方的に打ち切られた。「あなたなら言わなくてもわかるといった」というように伝達しなかったこともごちらのせいにされ、人格を傷つけられた。（執筆・取材）</p>
---	--

【〔継続的な取引〕発注打ち切り + ハラスメント】

1	<p>同じ媒体の仕事を何年も続けて、現場での責任も明らかに重くなったので報酬アップをかけたところ逆ギレされ、いきなり契約を切られかけた。（校正・校閲）</p>
---	---

【仕事の発注が口約束 + 支払い遅延・未払い + 〔継続的な取引〕発注打ち切り】

1	<p>突然レーベルが休止するといわれ、連載していた漫画の原稿を納品したにもかかわらず原稿料の振り込みがされなかった。口約束ですが、単行本化の約束も全部なかったことにされました。（イラスト・マンガ）</p>
---	--

【支払い遅延・未払い + 過度のやり直し・追加作業 + 発注取り消し（キャンセル）】

1	<p>カタログ掲載の商品についてのコピーライティングの仕事で、具体的な指示（商品情報、デザイン例、訴求ポイントなど）がなく、スケジュールも変更。やり直しを命じられたが、一方的に打ち切られ、原稿料も未払い。抗議したら、「別の仕事で埋め合わせる」との返事で逃げた。（執筆・取材、校正・校閲、コピーライティング）</p>
---	---

Q5 フリーランスを保護する政策について、あなたが思うことをご自由にお書きください。

自由回答	
1	怪我や病気などで収入がなくなった場合の、補償を考えてほしい。(校正・校閲)
2	必ず契約書を作成することを義務化すること。最低料金を明確化すること。口約束でも、キャンセルになった場合の違約金規定を設けること。各職種(そのプロジェクトの仕事)の内容を明確化すること。納品から請求、支払いまでの期日を法的に定めること。(編集、執筆・取材、翻訳・通訳、コピーライティング)
3	保護というと、守られるべき社会的に弱い存在みたいですが、労働環境が改善し、仕事に見合った原稿料や経費がちゃんと支払われ、地位が向上していけば、保護される対象とはならないと思います。そのためには、本の出版に関しては、出版の話が決まった時点で契約書を取り交わす、雑誌媒体は単発仕事などもあり、出版契約を一つ一つ結ぶのは手間なので、簡単な条件を文字、文書で確認するよう、主に仕事を発注する側に向け、注意喚起して欲しい。また、トラブルがあった時の相談窓口が手弁当でやっている労働組合だけでは限界があるので、国がこうした相談窓口を積極的に作る(組合からそのノウハウを聞き)とか、組合の相談窓口を支援するとかしたらいいと思う。またフリーランスは、休業補償もないので、そうした面での新しい仕組みもあったほうがいいと思う。ですが、何はさておき、国は出版フリーランスの労働実態をちゃんと調査して欲しいです。(執筆・取材、撮影)
4	「業界の慣習」として口約束が多いが、契約書を必ず交わすことを法で決めてほしい。(編集、執筆・取材、撮影)
5	フリーランスを使っている企業には自社の社員の給料を上げる時は同率でフリーランスの報酬も引き上げるよう義務付けてほしい。少なくとも物価上昇率以上の引き上げを毎年してほしい。いまだに数十年前の単価で仕事を発注している企業が複数ある。出版大手は爆発的ベストセラーが出たり、コロナでぼろ儲けしてくせにいつもその利益を雇用の従業員と社内留保で独占し、フリーランスには1円も還元していない/国保の傷病手当金をフリーランスにも給付すべき/プロダクションなどの仲介業者のマージン率を公開とし、上限を15%までに決めてほしい/発注企業がプロダクションなどを使う場合は、実際に働くフリーランスに支払われる報酬額について発注元企業に責任を持たせるよう義務付けてほしい/企業対個人の契約のパワーバランスをとるため、実効力のある契約書のチェック機構のようなものがほしい/発注後のキャンセルにはキャンセル料を義務化してほしい。(校正・校閲)
6	簡易的にでもオンラインで契約を取り交わしていることが分かる仕組み。 ベースとなる最低賃金の設定。(デザイン)
7	契約、覚書などの確認、実施。従来のあいまいな状況の改善。(編集、校正・校閲)
8	原稿料未払いについての法的な措置を講じてほしい。(執筆・取材)
9	インボイス制度の見送り。発注側の契約の徹底。「フリーランス」という仕事のあり方の周知(閣僚にさえ、語感で「フリーター」と混同している人がいることを憂慮します)。(編集、執筆・取材、翻訳・通訳)
10	大手出版社でも契約書を作らなくて当然というところがあるが、中小の出版社は個人事業主への発注がいいかげんで、自分の都合で支払わない、途中で出版予定を延期する、あるいはとりやめるなど「それがふつうだ」「そういうものだ」と考えているところが多い。(編集、執筆・取材、校正・校閲、翻訳・通訳)
11	とにかく契約書をきちんと交わすこと(ただしある程度簡略化したものでないと、事務処理が負担に)。著作権は遵守すること。(イラスト・マンガ)

12	社員を一人雇用しており、フリーランスガイドラインに定められたフリーランスに該当しないが、個人事業主は大手得意先に対して明らかに弱い立場にあるので、独占禁止法や下請法における弱者保護を強化してほしい。（編集、執筆・取材、コピーライティング）
13	ケースバイケースなので難しい。最低料金を設定すると、全ての顧客がその価格にしてくると困る。（組版、デザイン）
14	政策についてあまり詳しく知らないのですが、フリーランスは1~2つの仕事に頼っている人が多く、それがなくなったり、入金がなかったりするだけで、生活に直結してしまうので、会社員のような保障制度が必要だと感じます。また、社員一人ひとりが無自覚な場合が多く、各企業でフリーランスの扱いに関する研修などが必要だと思います。（編集、執筆・取材）
15	所得保障、社会保障費の負担減、トラブル発生時の迅速・簡便な係争処理の制度。（デザイン）
16	実は子供を産んだときに保育園探しをしましたが、横浜でフリーランスだと点数が低くなってしまい、預けることができませんでした。（たまたまその後埼玉に引っ越したら空いてる場所があり民営に預けることができました）関東の情報しかありませんが、大体の場所でフリーランスだと点数が低くなる傾向にあります。どうかフリーランスでも保育園で同等に扱っていただけるようになるのではないかと思います。 後在宅仕事だったら子供を見ながら仕事をすればいいと言われてしまいましたが、できるわけがありません。後フリーランス=フリーターと混同している政治家の方を散見したのでとても残念です。この辺が浸透して欲しいところです。（イラスト・マンガ）
17	「この業界はこういうものだから」という空気のまま、理不尽な想いをさせられている作家が多数いると思います。もう少し明確なルールがあれば、それを楯に作家側も強く闘う事が出来ると思うので、検討していただいたら嬉しく思います。（イラスト・マンガ）
18	著作権についてのトラブルが多いので、相談できる窓口や著作権トラブルに対応できる公的機関を作ってほしい。著作権はフリーランスにとって財産で、守られるかどうかで収入も変わってくる。（イラスト・マンガ）
19	フリーランスに対するハラスメントを防止する仕組みがないと思う。（編集、執筆・取材）
20	フリーランスの原稿料の最低を決めてほしい。最初に金額提示することを徹底してほしい。フリーランスにおけるパワハラ認定をしてほしい。（執筆・取材）
21	発注者側にインセンティブ or 罰則を与える仕組みでないと状況は変わらないと思う。ガイドライン（望ましい方法）を提示されても、結局は受注者の方が立場が弱いことが多く、言えない。条件のすり合わせのときに確認する項目のテンプレや、一方的に不利な条件を受注者に課してはいけない旨（ある程度具体的にルールを決めてほしい）は共通認識としてあったほうがいいと思う。フリーランスになる前は出版業界で仕事をしていなかったが出版業界には「報酬は仕事が終わった後相談しながら」と言ってくる人もいてびっくりした（事前に提示してと言った）。発注者はフリーランスの生殺与奪の権を、自分が持っているという自覚をしてほしい。（執筆・取材）
22	フリーランスの生活、雇用条件を守ってくれる、特に海外企業との契約でも適用できる法律が必要だ。（翻訳・通訳）

23	<p>●仕事・収入が不安定なフリーランスにとって、定期的な仕事の報酬は、家賃の支払いなどに組み入れており、それが打ち切られると、生活設計を見直さないといけなくなり、大きな打撃を受ける。また、その仕事のための時間をあけているので、すぐに他の仕事でその穴を埋めるというわけにはいかない。なので、継続的に請けてきた仕事の打ち切りには、例えば3カ月前の通告とか、何らかの金銭的補償をする仕組みが欲しい。●発注先が倒産をして報酬不払いになった場合、現行の法律では、フリーランスは支払いが保障されない。定期的に仕事を請けていたような場合は、雇用労働者には保障されている国の未払い賃金立て替え払い制度を、フリーランスにも準用してほしい。賃確法がつくられた趣旨は「働く者の生活の安定と社会的公正を図る」というものだが、労働の対価が「生活の源泉」であるという点は、雇用類似就労者にもあてはまる。（編集、執筆・取材、校正・校閲）</p>
24	<p>通常の会社に雇用されている人にとっては、セクハラは解雇されたり左遷されたりする可能性がある「リスクのあること」だと思う。しかし、フリーランスは守ってくれる会社がないために、加害者には無意識的にか意識的にか、フリーランスだからやってもリスクがないと思っている悪質な発注者がいると感じる。フリーランス相手にハラスメントをしても、雇用されている人と同じようにリスクがある世の中になってほしい。具体的には、ハラスメントの申告があったら一定期間仕事をしてはいけない、など。（執筆・取材）</p>
25	<p>社会的な保障、セーフティーネットを充実。（編集、執筆・取材、校正・校閲）</p>
26	<p>フリーランスが気軽に入れる労働組合の存在と、その周知。価格設定や、著作権など、守られるべきことを守りつつ、フリーランスもまたなめられない為の勉強が必要。（デザイン、イラスト・マンガ、撮影、コピーライティング）</p>
27	<p>インボイス制度はフリーランスを保護する政策ではないと思うので見直しをしてほしい。（デザイン、イラスト・マンガ）</p>
28	<p>仕事の特性上、契約書を作らないことがほとんどなので、契約書と同じとみなす簡素なものが必要。「明日、空いてたら来て欲しい」とか、「今から来てくれ」とか良くある話で、そういった場合いちいち契約書の作成、捺印などできない。 また自分の単価を、通常は1日5万円とか（様々）で決めている人がほとんどだが、日にちが増えると「グロス」でお願いされることがほとんどで、単価が下がる。（サラリーマンではないので、10時間作業しても30分で終わっても、単価は1日いくらなのだが、そのへんの理解がされない）（ディレクター（映像制作））</p>
29	<p>契約書締結の義務化と罰則の設定。（編集、執筆・取材、撮影）</p>
30	<p>さして期待はしていない。同様に立場の弱い非正規労働者に対するセーフティーネットの薄さを見ても期待はできない。正規就労の壁が高くなっているいま、保護の姿勢だけ見せて「起業」のハードルを下げようとしているだけではないか。（校正・校閲）</p>
31	<p>フリーランスは、さまざまな面で不安定で、ほとんど守られる要素はありません。なにがあっても泣き寝入り。出版ネッツだけが頼りです。この状況が少しでも改善され、安心して仕事が進められるようになってほしいです。（編集、執筆・取材）</p>
32	<p>多用な勤務形態の流動化のスピードは各種統計より圧倒的に加速している印象。人生百年時代を象徴する一般企業定年退職後の勤務形態としてのフリーランスへの挑戦を骨太政策として推奨していただきたい。保護する「守り」の政策立案が急務であることに留まらず、健康寿命を延ばすための「攻め」のフリーランス挑戦風土の基盤となる政策PRを望みます。（執筆・取材、校正・校閲）</p>
33	<p>よほどの料金設定をしないかぎり、単行本の編集業務はフリーランスには馴染まない仕事ではないかと感じている。時間で区切ることもできず、心血を注いでひとつの作品を仕上げるまであらゆることを考慮しているが、仮に売れても編集費が増額されるわけではない。重版したら編集印税をいただくなどの契約を試みたこともあるが、あまりうまく機能しなかった（重版しないとか、印税が1%として、ほんの数万とか）。（編集）</p>

34	これだけ正社員より業務委託契約社員が多くなっているのに、後者を守る法律がない。政府は雇用者の都合で雇用条件を変えたり、使い捨て出来ない規制を作れ。（翻訳・通訳）
35	コロナでのPCR検査の結果待ちの間に仕事ができないときの補償など。（撮影）
36	これは、これまでも議論されてきたことだと思うが、そもそも「フリーランス」の定義が曖昧すぎる。言葉そのものは単に個人事業主を指すとしても、年に数万～数十万程度の収入しか得られないフリーランスと、生活の基盤をフリーランスで得た収入で賄っているケースとでは、保護すべき内容も法律も違うものになる。中小零細企業の実態に即すべき責任の範囲と、大企業に適用すべき法的・社会的責任が違うように。（編集、執筆・取材、組版、デザイン、撮影、Web制作、コピーライティング）
37	スキルがなくともフリーランスを名乗る人が増えてきたため、企業側もフリーランス採用に関して慎重になっている。大企業ではフリーランスと直接契約しない方針の会社も多い。下請法逃れをしたい企業も多く、大企業から中規模企業、そこから中小企業に案件が丸投げされ、中間搾取が慣習となり末端のフリーランスの単価が上がらない。継続的に取引があれば、契約社員やパートナー社員のような仕組みで大企業と直接の雇用契約を促進する法制度を整備してほしい。（もっとも大企業が正社員を個人事業主にする動きもあるので、フリーランス採用は強行法規や税金を逃れる温床になっているのでは？）派遣などの雇用形態への規制が厳しくなったことから、今はフリーランスに無理な仕事を押し付ける会社も出てきた。また、クラウドワークスなどの媒体で最低時給を下回る仕事の依頼をして、それを受ける人たちがいるのも問題。新たな搾取の形を取り締まってほしい。（校正・校閲、翻訳・通訳）
38	最低賃金同様、各分野や職業ごとに最低報酬を決められるものなら……。法的に難しいとは思いますが。（校正・校閲）
39	発注するクライアント側に契約についてきちんと守ってもらいたい。フリーランスといっても様々な働き方があるので、実情にあった実効性のある政策を立てて実行してほしい。（編集、執筆・取材、校正・校閲）
40	契約書には、料金の支払い方、支払い時期も明記していただきたい。支払いは出版物の発行月ではなく、仕事が納品された月にしていただきたい。（校正・校閲）
41	保護する政策なんてありましたっけ？（翻訳・通訳）
42	うまく表現できませんが、昔むかしの内職の感覚でしか考えられていないこと。わずかな報酬を我慢させられている。いっぽうで、かつて取引のあった某社は、仰々しい契約書で、一方的な法的責任を押し付けたこと（実際にそういう案件が起きた場合にそうしたかはわからないが）。個人対大会社の関係では、いい加減に判を押すしかないと大半の人がそのまま契約書にサインしていた。（校正・校閲）
43	フリーランスとしての自由度・選択肢が損なわれない範囲での法的整備。法的な縛りによって、活動の範囲やクライアントとの対等な関係性が、狭められる可能性もある。個人的には、「弱い立場」という設定での法的保護以上に、「フリーランスの魅力」を文化として醸成していくことも大切だと思う。そこでの乖離を危惧している。（編集、執筆・取材、Web制作、コピーライティング、マーケティング企画）
44	発注元が大手、あるいはいくつも代理店が入っていても、トラブルを理由に賃金を払ってもらえないときがあった。大元の発注元が末端の支払いまで責任を持つ、あるいは末端のフリーランスが直接大元の発注元に請求できるような仕組みがほしい。（執筆・取材、校正・校閲、コピーライティング）
45	① 仕事の条件を文書化→②合意契約 という流れで進めるべき。（校正・校閲）
46	どんな保護政策があるか、情報をもっと知りたいです。（校正・校閲）
47	ありがたいことに今のところトラブルというほどの事象には遭遇していないので、罰則というよりは、フリーランスで働いている人を尊重する機運を醸成するような政策方針があればいいと思います。（校正・校閲）

48	フリーランスの側が勉強して闘う力をもつのはいいのだが、本来は、発注する側がよく知っておかなければいけないことなのでは？ 世の経営者たち全員に研修を受けさせて、テストに受からないとフリーランスを雇ってはいけない、ぐらいの強い施策にしないと、世の中変わらない。人を安く便利に使うことしか考えていない経営者が多すぎる。（編集，執筆・取材，校正・校閲）
49	最低保証額の設定。（編集，校正・校閲，組版）
50	自分自身を含めて多くのフリーランスが、定期的かつ継続的に発注される仕事に依拠しており、その点では雇用労働者に近い存在だといえます。このような実態を踏まえた法整備を願います。（編集，執筆・取材，校正・校閲）

ま と め

●Q3「直近の5年間で、遭ったことのある、あるいは見聞きしたことのあるトラブルにチェックしてください」（複数回答可）では、「仕事の発注が口約束」が第1位（43件）、「報酬・代金の支払い遅延、未払い」が第2位（25件）だった。「想定されていた継続的な取引が取引先の都合で発注がなくなり打ち切られた」は第3位（19件）だが、これに「一方的な発注取り消し」（16件）、「契約期間等の取り決めが守られず、取引先の都合で契約が中途解除された」（4件）、「契約期間等を決め仕事を継続していたが取引先の都合で更新されなかった」（3件）を合わせると、契約打ち切り・キャンセル関係は42件となり、「仕事の発注が口約束」に次ぐ件数である。

●Q4の具体的なトラブル事例の自由記述の特徴は、次のとおり。

◎「**仕事の発注が口約束**」は7件だが、p.10以降に記載している「仕事の発注が口約束＋著しく低い報酬」などの複合的なトラブル事例を合わせると、14件となる。「仕事の発注が口約束」だとトラブルが発生しやすいことが見て取れる。

◎「**支払い遅延・未払い**」には、「追加作業の代金の未払い」が2件ある。「過度のやり直し・追加作業」にも「追加作業の料金が支払われなかった」が3件あり、この2つは、複合的に起こりやすいトラブルであることがわかる。また、p.11には「未払い＋発注取り消し」が4件あがっている。そのほか、「発注者会社が倒産のため未払い」になったケースも報告された。

◎「**著しく低い報酬**」では、大手クラウドソーシングサイトの紹介案件の単価が低く設定されていることが、記載されている。

◎「**過度のやり直し・追加作業**」は6件と多いが、p.10からの複合的トラブルのところにも6件あがっており、出版・Web関連フリーランスが遭遇することの多いトラブルであることがわかる。

◎「**発注取り消し**」では、「途中まで仕事が進んでいたのに発注取り消しにあった」事例、「仕事を依頼され、スケジュールを空けて待っていたのに（直前に）キャンセルされた」事例が目立った。前者では、進めていたところまでの代金の請求権があるが、それを知らない人、あるいは知っていても後の仕事に支障が出ることを恐れて言い出せないケースがあるのではないだろうか。後者では、予定していた仕事なくなったことの影響は非常に大きいため、キャンセル料の支払いをルール化する必要がある。

◎「**著作権関係**」の記述も、9件と多い。その内容は、「無断使用」「勝手な改変」「著作権の譲渡を迫られる」など。

◎「**取引条件の一方的な設定・変更**」では、「締め切りを早められた」「予定通り納品したのに、その案件は延期になったと言われた」などがある。

◎「**（契約期間あり）契約更新されない**」は1件、「**（継続的な取引）発注打ち切り**」は8件あがっている。継続して請けていた仕事がいきなり切られると、生活が困窮するとの切実な記載が目立った。意見を言ったり、条件の交渉をしたら打ち切りに遭ったという記述もあった。「経済的嫌がらせ（ハラスメントの一種）」とみなされる。

◎「**ハラスメント**」も、8件と多い。p.12以降の複合的トラブルのところにも、「未払い

＋ハラスメント」のほか「やり直し」「発注取り消し」「(継続的な取引)発注打ち切り」とハラスメントとの複合的被害が記載されている。

●Q5の「フリーランスを保護する政策についての自由記述」では、「契約書作成」「キャンセル料の取り決め」に関して実効性のあるルールをつくること、「未払い」「著作権侵害」への法的措置をとることなどの要望が多かった。そのほか、休業時(仕事を失ったときや病気・ケガの場合など)の所得補償などセーフティネットの整備を求める声、ハラスメント防止政策を求める声もあった。最低報酬の取り決めについては、設けてほしいという声がある一方で、「最低報酬を設定すると、すべての顧客がその価格にしてくると困る」という意見もあった。総じて、フリーランスを保護する仕組みが弱いこと、フリーランスの実情に合った実効性のある政策を講じて実行してほしい、という意見が多かった。

要 望

●2021年3月に「フリーランスとして安心して働ける環境を整備するためのガイドライン」(以下、「ガイドライン」)が公表され、「報酬の支払い遅延」「報酬の減額」「やり直しの要請」などが、独占禁止法(優越的地位の濫用)・下請法上問題となる行為とされたが、実効性の確保が、課題である。「フリーランスを保護する政策についての自由記述」では、「法的措置を講じること」「トラブル発生時の迅速・簡便な係争処理の制度を設ける」「発注者側にインセンティブまたは罰則を与える仕組みが必要」などの意見が出されている。こうした提案を参考にして、「守らせるしくみ」をつくってほしい。

●フリーランスが遭遇するトラブル事例・困りごとの中には、「ガイドライン」に盛り込まれていないものも多い。主なものに、契約解除・不更新の規制、ハラスメント防止対策、セーフティネットの整備があげられる。これらの課題は、厚労省「雇用類似の働き方に係る論点整理等に関する検討会」で議論・検討されてきたが、2020年12月に打ち切られ(中断され)、その内容・問題意識は一部を除いて「ガイドライン」に反映されていない。検討会を再開するなどして、これらの課題についての政策を早急に提示してほしい。

●契約解除・不更新の規制に関しては、2021年9月16日、日本マスコミ文化情報労組会議(MIC)フリーランス連絡会、出版ネッツ等は、「フリーランス・ガイドラインに解約規制を盛り込むことに関わる要請」(https://newwebtest.union-nets.org/wp-content/uploads/2021/09/guideline_yousei_2021_0916.pdf)を、関係省庁に対して行った。主な要請事項は、①解約には「正当な理由」がいること、②3カ月前予告と予告できない場合の補償、③一方的取り消しの際のキャンセル料支払いなどを「ガイドライン」と、国が示す「契約書ひな型」に盛り込むことである。これを、検討・実施してほしい。

●ハラスメント防止対策については、2020年6月からセクハラ、パワハラ、マタハラなど改正ハラスメント防止関連法が施行されたが、フリーランスはその適用対象になっていない。次回の法改正時には、ぜひともフリーランスを適用対象にしてほしい。

●セーフティネットを含め、フリーランスが安心して働ける環境を整備するには、労働者性の拡大(「誰が労働者か」の判断基準を見直し、「労働者」の範囲を広げる)が必要だと思われる。「労働者性の判断基準」の見直しに、早急に着手してほしい。

以上